

地質ニュース

特集 NO. 5 1955-6

地質調査所

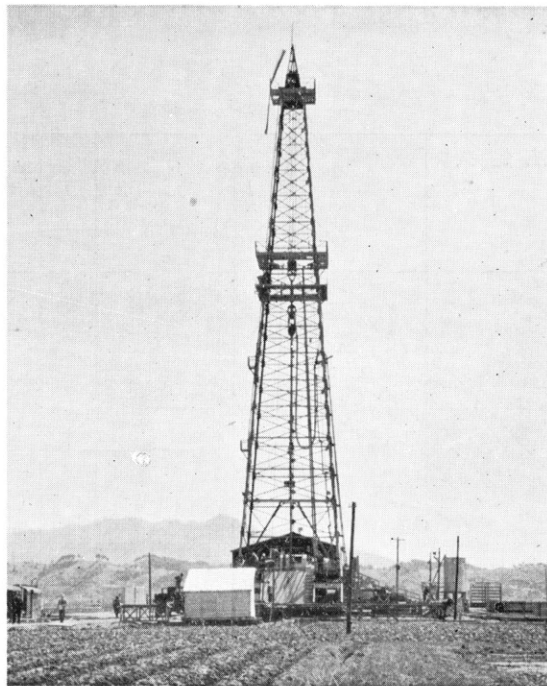
日本の石油資源

1954

年度の国内石油の産出量は国内消費量の3%位にしか当たらない。一度発見された

油田は、それが開発され、そこから原油が採取されるにつれて、その埋蔵量も次第に減つてしまうことは明らかである。

石油は今更言うまでもなく各種燃料として極めて必要であるだけでなく、近來は多種多様の化学工業の原料として近代文化を維持し発展させる血液でもあり、人類の繁榮に欠くことのできない大切な地下資源である。



秋田県八橋油田の3,000米試探塔

石炭、石油、天然ガス、はては原子力と世論のやかまし
い今日、日本の石油資源の実態をはつきり知

つておくことが何を考
え何を企てるにしても
まず大切なことではあ
るまいか。

一体现在の極めてわ
ずかな国内生産を将来
増加しうる見込がある
のであろうか？

又増加しうるとして
もその程度はどの位ま
でであらうか？

勿論将来のことは神
のみが知り給うのであ
らうけれども、ここで
は地質学の基礎の上に
立つて、日本の石油資

一方エネルギー源について、あるいは水力、あるいは
源の過去、現在、将来をながめてみよう。